

教職員向け「指導の手引き」



環境情報紙「エコチル」大阪版 令和6年度5月号表紙イラスト採用作品

この手引きは、「考えよう！わたしたちのくらしと環境・エネルギー」を使用する際に、環境学習につながる資料や、大阪での状況・対策を学習する資料として参考となる情報を整理したものです。

プラスチックごみ問題(p.2)

①プラスチックごみによる環境問題

ねらい

- 世界的に大きな問題となっているプラスチックごみ問題について知り、プラスチックごみを減らすための身近な行動につなげる。

留意点

- 写真を見せて説明することで、プラスチックごみによって、海の生き物に影響を与えたり、景観を損なうなど、悪影響を与えていることを伝える。
- 海洋ごみ(漂流・漂着・海底ごみ)は、生態系を含めた海洋環境の悪化や海岸機能の低下、景観への悪影響、船舶航行の障害、漁業への影響等、様々な問題を引き起こしていることを伝える。

「マイクロプラスチック」ってなに？

- 近年、マイクロプラスチック(5mm以下になったプラスチック)という微細なプラスチックごみが、沿岸及び海洋の生態系に影響を及ぼす可能性がある「海洋の環境問題」として、世界的な課題となっていることを伝える。

① プラスチックごみによる環境問題

プラスチック製品は、安くて使いやすいことから急速に普及して、わたしたちの生活を便利にしてくれています。その一方で、近年、適正に処理されずに捨てられたプラスチックが、海や川へ流れこみ、環境を汚染していることが世界的に大きな問題となっています。一度海へ流れ出したプラスチックごみは、自然界ではなかなか分解されず、多くが数百年にわたり残り続けてしまうとわれています。さらに、マイクロプラスチックになると、海中の有害物質を吸着しやすくなり、それをえさと間違えて食べてしまうことで、生物に影響をおよぼすおそれもあるのです。



大阪市内の海岸に流れついたごみ



漁網が絡まったウミガメ

写真出典：NOAA (National Oceanic and Atmospheric Administration) / 写真提供：写真家

「マイクロプラスチック」ってなに？

海や川に捨てられたプラスチックごみが、太陽の熱や風、波などの力によって割れて、5mmより小さくなったものを、「マイクロプラスチック」といいます。洗濯機からの排水にも、合成繊維くずのポリエステルなど、マイクロプラスチックのものになる物質がふくまれています。

海や川の生き物はそれをえさと間違えて食べてしまうことがあります。さらに、食用にしている小魚の体内をとおして、わたしたちの体内に入ってくるおそれもあります。

小粒化したプラスチックごみ



写真出典：国内環境庁・大阪府立環境衛生学研究所

② プラスチックごみはどこから？

海のプラスチックごみは、直接海に捨てられたごみだけでなく、道路や街中などにポイ捨てされたごみが、雨や風で流されて、川から海へ運ばれて発生します。海のプラスチックごみの多くが、陸域由来と考えられています。

大阪湾では、プラスチックごみが漂流ごみの全体の約8割を占めており、レジ袋やペットボトル、食品包装材などの「使い捨てのプラスチック」が、そのうち約3割を占めています。



プラスチックごみが海に流れるまで

②プラスチックごみはどこから？

留意点

- 街中でポイ捨てされたプラスチックごみが、川から海へ運ばれて、海のプラスチックごみとなっていることを伝える。
- また、大阪湾では、プラスチックごみが漂流するごみの約8割を占めており、食品包装材やレジ袋、ペットボトルなどの使い捨てプラスチックが約3割を占めていることを伝える。

プラスチックごみ問題(p.3)

③プラスチックごみを減らすために

留意点

世界の動き・大阪府の取り組み

- ・ G20サミットで主要テーマとして取り上げられるなど、近年、海洋プラスチックごみが世界的な問題となっていることを伝える。
- ・ 海洋プラスチックごみによる新たな汚染ゼロをめざす「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」が世界各国で共有されたことを伝える。
- ・ 2019年1月の「おおさかプラスチックごみゼロ宣言」以来、大阪府は企業や団体などと連携し、マイボトルの利用促進によるプラスチックごみの削減や海洋プラスチックごみの回収、漂着ごみの調査など、様々な取り組みを進めていて、2024年4月からは、街・川・海にごみのないきれいな大阪をめざす「OSAKAごみゼロプロジェクト」に取り組んでいることも知ってもらう。

③ プラスチックごみを減らすために

このような状況を踏まえ、世界中でプラスチックごみ問題に対する取り組みが行われています。みなさんも、プラスチックごみ問題について調べたり、学んだりして、一人ひとりにできることは何か、考えてみましょう。

④ 世界の動き・大阪府の取り組み

2019年6月に開催されたG20大阪サミットでは、海洋プラスチックごみによる新たな汚染をゼロにすることをめざす「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」が共有されました。大阪府では、2019年1月に大阪府と共同で「おおさかプラスチックごみゼロ宣言」を行い、海洋プラスチックごみの回収や漂着ごみ調査、啓発動画の作成など、プラスチックごみゼロに向けた取り組みを進めています。また、2024年4月からは、地域や企業などのみなさんと協力して、街・川・海にごみのないきれいな大阪をめざす「OSAKAごみゼロプロジェクト」に取り組んでいます。

⑤ 恩智川でのごみ調査の結果

ペットボトルやレジ袋、食品の容器包装など、わたしたちの生活から出ているごみが多くの割合を占めています。

ごみの内訳（仮定ベース）

品名	割合
ペットボトル	44%
レジ袋	7%
食品容器包装	23%

全体の約7割

⑥ 動画で学ぼう！

大阪府の環境保全に関する動画「ハッピー・オオサカ・バイパス」

海洋プラスチックごみ問題や今日からできる取り組みなど、クイズを交えて楽しく分かりやすく紹介しています。

⑦ 考えてみよう！

① わたしたちにも身近な大阪府にもプラスチックごみが流れこんでいますが、その量は1年間でどれくらいでしょうか？

品名	量
① 牛乳パック	約10本分
② お風呂	約2杯分
③ トラック	約1台分
④ 小学校の25mプール	約3杯分

② ペットボトルが海に流れ出したとき、自然に分解されるまでに何年くらいかかると思われますか？

品名	年数
①	100年未満
②	400年以上

このままだと、いつか大阪湾もプラスチックごみでいっぱいになってしまうんじゃない？！

動画「みんな考えよう！環境・エネルギー」

きれいな海を守るためには、わたしたちのくらしの中で、川や海に流出するごみを減らすことが大切です。プラスチックごみゼロに役立つ新しい技術について、クイズを交えて紹介しています。

<参考ホームページ>

◆おおさかプラスチックごみゼロ宣言

<https://www.pref.osaka.lg.jp/o120020/eneseisaku/kaivoplastic/index.html>

◆「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画について

https://www.pref.osaka.lg.jp/o120020/eneseisaku/kannou_sdgs/blue-ocean-plan.html

◆OSAKAごみゼロプロジェクト

<https://www.pref.osaka.lg.jp/o120070/osakagomizeroproject.html>

恩智川でのごみ調査の結果

- ・ 令和3年度に恩智川において、ごみ組成調査を実施した結果、回収したごみの約7割がペットボトルやレジ袋など日々の生活から出るプラスチックごみであった。
- ・ 日頃から使い捨てプラスチック製品をなるべく使わないよう心掛けることが、海洋プラスチックごみ問題の解決につながることに気付くようにする。

<ごみ調査に関する報告・お問合わせ先>

環境管理室 環境保全課 環境計画グループ

電話:06-6210-9577 E-mail:kankyokanri-g03@sbox.pref.osaka.lg.jp

プラスチックごみ問題(p.3)

③プラスチックごみを減らすために【続き】

動画で学ぼう！

- 海洋プラスチックごみ問題について分かりやすく学べる動画を見て、海洋プラスチックごみの削減など、環境の保全に向けて今日からできる取り組みについて考えるきっかけとする。

考えてみよう！

<第1問>

- 大阪湾にたくさんのプラスチックごみが流れ込んでいることを伝える。

<第2問>

- プラスチックごみは分解されにくく、長期にわたり残り続けることを伝え、第1問とあわせて、このままではどんどん海洋プラスチックごみが海に蓄積されていくことを伝える。

<動画「みんな考えるで！環境・エネルギークイズ」>

- プラスチックごみゼロに役立つ新しい技術について、クイズも交えて紹介する動画を見て、海洋プラスチックごみ問題についての理解を深め、自分にできることを考えるきっかけとする。

プラスチックごみ問題(p.4)

④調べてみよう！ごみの種類

留意点

清掃活動で集めたごみについて調べる

- 学校周辺や、街中や河川敷、海岸などさまざまな場所で行われる清掃活動に参加し、自分たちで拾ったごみについて、例えば「ごみ調べカード」を使って調べ、どのようなごみが多いのか、グループで発表しあうことで、ごみの現状について、理解を深める。

詳しくはこちらのQRコードをご覧ください。
簡易版調査カードや調査入力シートをダウンロードすることができます。



万華鏡を作ってみよう！

- 海岸や河川敷で手に入るマイクロプラスチックから万華鏡を作る方法を掲載している。
- マイクロプラスチックを実際に拾い、工作に使用するという過程を経て、海洋プラスチックごみによる海洋汚染の問題を身近に感じ、関心を持つきっかけとする。

プラスチックごみ問題(p.5)

⑤プラスチックごみを減らす工夫「プラごみ“ほかさ”3か条」

留意点

- プラスチックごみを減らすために、身近にできることを伝え、自分たちにできることを考えるきっかけとする。

プラごみ“ほかさ”アクションbookでは、プラスチックごみ問題の現状や、日常生活での取り組みアイデアなどを分かりやすく紹介しています。

<https://www.osaka-hokasan.jp/cardgame/>



Osakaほかさマップ

- マイボトルやマイ容器で商品を持ち帰ることができるお店・スポットを調べることができます。

<https://www.osaka-hokasan.jp/>



商品の分類や地図から簡単に探すことができます。



⑤ プラスチックごみを減らす工夫「プラごみ“ほかさ”3か条」

プラスチックごみを減らすためには、ほかさ（捨てない）ようにすることが大切です。使い捨てプラスチック製品（レジ袋やストローなど）を使わないようにする、ごみの分別に取り組むなど、ふだんの生活で取り組めることはたくさんあります。できることから始め、プラスチックごみゼロをめざしましょう。

1 プラごみを減らせる商品やサービスを選ぼう！

マイバッグやマイボトルを持ち歩く
ストローやスプーンなどを使わない
プラスチック包装でない商品やサービスを選ぶ

2 今持っているものを長く大切に使う！

フリーマーケットやリユースショップを利用する

3 リサイクルにつながる取り組みをしよう！

ごみ出しの分別ルールを守る

おおさかプラスチックごみ3Rカードゲーム

生活の中でプラスチックごみが出る場面において、3Rの取り組みアイデアを考えながら、楽しく学べるカードゲームです。

3Rとは？

- ① Reduce (ごみを減らす)
- ② Reuse (繰り返し使う)
- ③ Recycle (資源として再利用する)

カードゲームのデータや貸出しについてはこちら ▶

Osakaほかさマップ

マイボトルやマイ容器で商品を持ち帰ることができるお店・スポットを簡単に探せるウェブサイトです。マイボトルやマイ容器を使えるお店を探してみましょう！

海洋プラスチックごみ問題は対策をしないとどうなるの？プラスチックごみを減らすためにどんなことができるだろう？

詳しく学べる海洋プラスチックごみ問題の解説はこちら ▶

おおさかプラスチックごみ3Rカードゲーム

- 生活の中でプラスチックごみが出る場面において、3Rの取り組みアイデアを考えながら、楽しく学ぶことができます。

<https://www.osaka-hokasan.jp/cardgame/>

ホームページからダウンロードできます。カードゲームの貸出しも行っています。



<Osakaほかさマップ・3Rカードゲームに関する問合せ先>

循環型社会推進室 資源循環課 3R推進グループ

電話:06-6210-9567 E-mail:shigenjunkan-recycle@gbox.pref.osaka.lg.jp

プラスチックごみ問題(p.5)

<補足資料>



©2014 大阪府もずやん

対策をしないとどうなるの？
プラスチックごみを減らすために
どんなことができるだろう？

くわしくはこちら



世界の国や地域と協力して解決をめざす海洋プラスチックごみ問題

プラスチックなどの海洋ごみは、海にくらぐ生き物に悪影響を及ぼしたり、海を移動する船の迷惑になるなど、国内外でさまざまな問題を引き起こしています。2019年に開催されたG20大阪サミットでは、海洋プラスチックごみによる新たな汚染をゼロにすることをめざす「海洋プラスチック・ビジョン」が発表され、世界の国や地域において、海洋プラスチックごみに対する取り組みが進められています。

なぜ世界の国や地域と協力するの？ 対策をしないとどうなるの？

世界では、1年におよそ800万トン(原セラー・ドット・ドット)のプラスチックごみが海へ流出していると推定されています。プラスチックは、自然の力でなかなか分解されません。海に流れるプラスチックごみが、このまま増え続けると、2050年には、海に浮かぶプラスチックごみの量が、世界中の海で泳ぐ魚の量を上回ると予想されています。

海の生き物への影響～アオウミガメの例～

2020年11月に鹿児島県鹿児島市で発見されたアオウミガメが、海産物(大阪市)に運び込まれました。このウミガメは、孵化から20日たったばかりで、まだ食べません。そのころから、レジ袋や食品の包装紙などのプラスチックごみを食べ始め、1～2週間以内に計16日間で21個のプラスチックごみを摂取しました。胃腸が詰まらなくなると考えられます。海に浮かぶレジ袋などのごみをちぎった海鳥やクラゲが食べたと考えられています。

マイクロプラスチックを減やさないためにできること

プラスチックは、大粒の粒や破片などの状態で流れてくることが多いですが、小さく砕けたり溶けたりしたプラスチックをマイクロプラスチック(ミクロプラスチック)といいます。マイクロプラスチックは、とても小さいので、海中で生物の餌のすべてを占領してしまうことも、環境には手前です。また、目に触れないほど小さくくだけたとしても、プラスチックは、なかなか自然に分解されないため、海の中や大気中に残り続けます。そのため、マイクロプラスチックになる前にプラスチックごみを回収することや、プラスチックごみを減らすようにすることが大切です。

海をより清潔にしよう

公園
ごみ箱から離れたところへ、ごみを出さないでください。
ごみ箱に捨てたプラスチックごみ、ごみ箱から離れたところへ、ごみを出さないでください。
ごみ箱に捨てたプラスチックごみ、ごみ箱から離れたところへ、ごみを出さないでください。

わたしたちができること

✓ ごみ箱に入らないごみは持ち帰る
✓ 分別は必ずする
✓ 飲み出す目や時間を守る
✓ 海外で使うプラスチック製品は定期的に確認し、持ち帰る前に回収する
✓ プラスチックごみ問題、自分ごととして考えてみよう！

学校授業でプラスチックごみ-CO₂(二酸化炭素)の排出削減！

本県各地の学校で授業で環境教育の一環として、プラスチックごみの削減とCO₂の削減が導入されています。大阪府でも、令和3年度から一時的な削減目標が定められ、各学校が削減目標を達成するための取り組みを行っています。プラスチックは石炭からできているものが多く、原料の石炭を採るときも、燃やしたり、加工したり、使用後に捨てるなど、さまざまなCO₂の排出が伴います。プラスチックの削減は、CO₂の削減に貢献します。プラスチックの削減は、CO₂の削減に貢献します。プラスチックの削減は、CO₂の削減に貢献します。

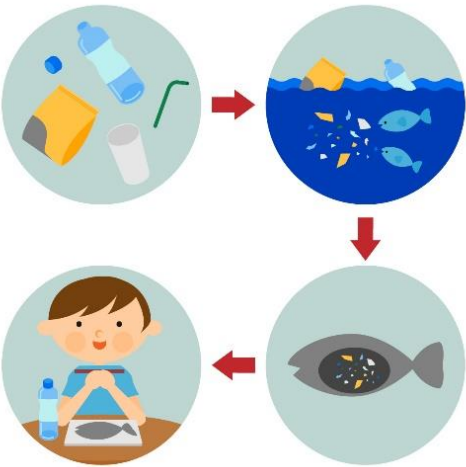
マイクロプラスチックについて

- 東京湾で捕ったカタクチイワシの消化管を調査した結果では、64尾中49尾から計150個のマイクロプラスチックが検出されています。検出されたマイクロプラスチックの約8割が0.1～1ミリの大きさでした。

(東京農工大学 農学部環境資源科学科 高田秀重教授による調査研究結果)

- マイクロプラスチックは、PCB、ダイオキシン、DDTなど、残留性有機物汚染物質(POPs)と呼ばれる海中の有害化学物質を取り込みやすいことが分かってきています。マイクロプラスチックを摂取したプランクトンを小魚が食べ、より大きな魚が小魚を食べ・・・という食物連鎖を通じて、有害化学物質が生き物の体内に蓄積する可能性が懸念されています。

(千葉商科大学「MIRAI Times(2023. 3. 22コラム)」)



プラスチックの旅(p.6-7)



留意点

(体験学習)プラスチックの旅

- ・ ペットボトルの気持ちになって、自分が行きたい矢印の方向、あるいは行きたくない矢印の方向を指で進めていき、どのようなゴールに到着するかを学ぶ。
- ・ プラスチックごみは、ゴミ箱に捨てられ、回収、ゴミ処理場へ持ち込まれると、焼却後、埋立処分場で適正に処理されたり(ゴール1)、リサイクル品となり再利用(ゴール2)される。
- ・ 一方、ポイ捨てされると、風に飛ばされたりして転がり、川から海に運ばれ、海岸に打ち上げられ、海岸を汚したり(ゴール3)、海の生き物に影響を与えたりする(ゴール4)。
- ・ また、ゴミ箱に捨てられた場合でも、ゴミ箱が一杯で山積みになっていると、風に飛ばされ川から海へ運ばれてしまうこと、ポイ捨てされたゴミを見つけたら拾ってきちんとゴミ箱に捨てることで、適正に処理されることを伝える。

<参考情報>

① 焼却後のごみの埋立処分について

近畿2府4県168市町村で発生したごみは、各市町村等のごみ処理場で焼却されたのち、大阪湾にある埋立処分場で適正に埋立・処理される。

埋立により出来上がった土地は、コンサート等に活用されている。

埋立処分場(大阪湾広域臨海環境整備センター)



泉大津沖処分場



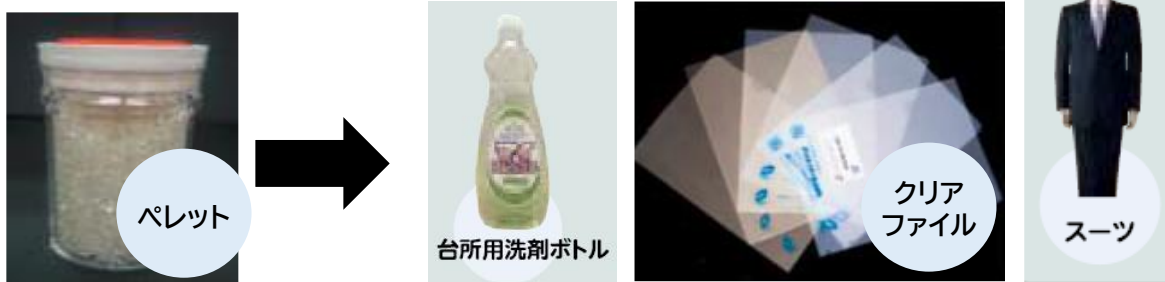
大阪沖処分場

※泉大津沖処分場は、ほぼ埋立が終了竣工した場所でイベント等が開催されている。

プラスチックの旅(p.6-7)【続き】

②プラスチックのリサイクルについて

- 回収されたペットボトルは、選別や破碎、洗浄を行うことでペレット状の原料とし、再度、ペットボトルとして、また、クリアファイルや衣類等として再利用される。

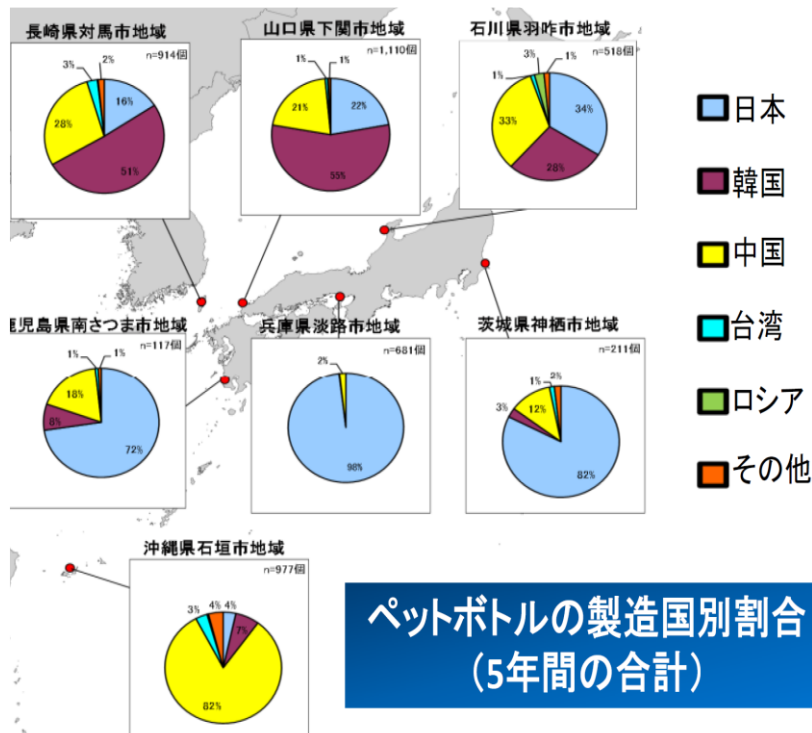


③大阪湾のプラスチックごみの現状

- 大阪湾の漂流・漂着ごみの約8割がプラスチック類で、そのほとんどが日本製。

(参考)H22-26 環境省による漂着したペットボトルの製造国別割合

- ・大阪湾: 98%が日本製
- ・沖縄県: 約8割が中国製で日本製は3%
- ・長崎県、山口県: 約5割が韓国製で日本製は数%



- 海洋プラスチックごみの大半(約8割程度と推計)は、河川を流れて到着した陸域由来のごみと言われている。
- 関西広域連合の調査結果では、大阪湾の海底にレジ袋300万枚、ビニル片610万枚が沈んでいると推計されている。

表紙及び裏表紙について

企業のお仕事とSDGs

- ・ 現在、企業では、環境に配慮した製品づくり・サービス提供をしたり、地域の環境を守る活動に積極的に参加するなど、様々なことに取り組まれています。
- ・ 環境に関する取り組みの実例を知る参考として、職業教育の参考として、冊子作成に協力をいただいている企業の取り組みを大阪府のホームページで紹介しています。



<参考ホームページ> 企業のお仕事とSDGs (大阪府)

https://www.pref.osaka.lg.jp/o120020/eneseisaku/education/kigyo_sdgs.html

【実例紹介】

<株式会社OSGコーポレーションの取り組み>
「ステハジ」プロジェクト



さあ、みんなでサステナブル はじめよう！



ステハジHP

“使い捨ては恥ずかしい”という考え方を通して誰でも、毎日、どこでも、少しの意識と行動で海洋プラスチックごみ問題などの使い捨てから生まれる、その他様々な社会課題を個人・企業・自治体・団体・教育機関が一体となって啓発・実践し、行動変容に取り組むプロジェクトです。

さあ、みんなでサステナブルはじめよう！

「ステハジ」主催のプロジェクト

ペットボトルを削減した量を競う「マイチャレ」イベントや、「日本とアジアをつなぐビーチクリーン」などみなさんと一緒になって行動変容に取り組んでいます。



<サラヤ株式会社の取り組み> 「いのちをつなぐ学校」



「いのちをつなぐ学校」はSARAYAが取り組む、感染症から命をまもる衛生の知識から、生命科学の歴史や最先端の話題まで、動画で楽しく学べるウェブサイトです。また、持続可能な社会を目指し、企業活動を通じて様々な活動を行っているSARAYAの社員が学校を訪問し、感染症からの予防やパーム油などの環境問題をテーマに出張授業を行います。ぜひ、WEBサイトをご覧ください。

【いのちをつなぐ学校の特徴】

- | | |
|-----------------|----------------------------------|
| 1) <生命哲学から学ぶ> | 生物学者の福岡伸一さんと一緒に生命の本質から掘り下げて考えます。 |
| 2) <好奇心を刺激する学び> | 知識を増やす学びではなく、知りたくなる学びを提供します。 |
| 3) <最新の正しい知識> | 日々進展する科学の最新情報をもとに正しい知識を提供します。 |
| 4) <自分ごと化できる学び> | 日常生活と生命科学をつなぎ行動を促します。 |

【コンテンツ例】

3DCGに変身したフクオカハカセが、「生命とは何か」を微生物学、疫学などの歴史からひとといて、わかりやすく教えてください。

架空の学園「いのちをつなぐ学校」を舞台に、個性豊かな動物キャラクターたちが生命の不思議を探究するショートアニメです。

ほかにも専門家へのインタビューや、手洗いの正しい方法を学ぶ動画など毎月更新中。ぜひアクセスしてください。

<BRITA Japan株式会社の取り組み>



子どもたちの未来につながる水を、多くの皆さんにとどけるために、ブリタジャパンでは様々な環境保全活動を行っています。

ブルーオーシャンビジョン実現のために
大阪府・大阪市との事業連携協定締結

森を育て“水”を守り、環境保全について考える
富士山麓での育林活動

海洋プラスチックごみの削減をはじめとする環境関連分野におけるパートナーシップを構築し、相互に密接な連携を図ることにより、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」の実現に向けた取り組み等を推進し、豊かな環境の保全と創造を進めていきます。

山を守り、森を育てることは、水を守り生活を守ること。
2007年に開始した富士山麓での植樹、育林活動は、NPO法人、ブリタジャパン社員、ユーザー（ブリタクラブ会員）三者でのプロジェクトとして定着しています。



ブリタのさまざまなサステナビリティへの取り組みは、こちらをご覧ください▶▶▶



大阪府・市との事業連携協定の詳細は、こちらをご覧ください ▶▶▶



ぷちぷちTMは リサイクルできる 大切な資源です。



ぷちぷち[®]回収BOXを設置しています



学校や自治体のご協力のもと、ご家庭で出る使用済みのぷちぷち[®]を集めて回収するぷちぷち[®]回収BOXの設置を行っています。

これまでに200台以上（内、学校72台）の設置実績があります。



千葉市役所



栃木県小山市立東城南小学校

リサイクルの出前授業を実施しています

子供たちが環境保護の重要性を学び、体験学習を通じて、持続可能な未来の実現に向けた一歩を踏み出すお手伝いをさせていただきます。



回収BOXや出前授業など、ご興味をお持ちいただけましたら、以下の連絡先までお気軽にお問い合わせください。

ぷちぷち[®]防災支援



災害時には、避難所で少しでも快適に過ごせるようにぷちぷち[®]や簡易パーティションなどの支援も行っています。

 川上産業株式会社

<https://www.putiputi.co.jp/>

【東京本社営業所】
東京都千代田区五番町6-2ホームレットホライゾンビル4F
TEL: 03-3288-3231
ぷちぷち[®]は、川上産業株式会社の登録商標です。



会社HP



使用済みのプチプチ[®]などを含む再生原料を製品全体の90%以上（90）に使用しています。 ※再生原料率は2023年度の全工場平均です。
お客様がもっと簡単に製品を選ぶことができるよう、環境にやさしい製品や取り組みを「エコリアル」をテーマにしました。「エコリアル」をテーマに、それだけでなく、



<参考情報>

出前講座等の環境教育の教材・支援プログラム

- 大阪府では、様々な企業や団体等の事業者の協力のもと、出前講座や施設見学等の環境教育の教材・指導プログラムを紹介しています。
- 令和7年度は内容を拡充し、さらに幅広い分野の環境教育プログラムを紹介していますので、ぜひご活用ください。

<参考ホームページ> 令和7年度 環境教育の教材・支援プログラム(大阪府)

<https://www.pref.osaka.lg.jp/o180080/shochugakko/kankyo-top/kankyo.html>



環境教育情報紙「エコチル」

- 大阪府と株式会社アドバコムは、次世代を担う子どもたちが地球環境問題について理解を深め、主体的に行動できるよう促すことを目的とした連携協定を締結し、協定に基づく取り組みとして、令和6年4月から各小学校1～6年生に環境教育情報紙「エコチル」を配付しています。
- 本冊子と併せて環境教育にご活用ください。

<https://www.ecochil.net/>



【参考情報】環境学習ツールについて

<環境学習ツール>

- 地球温暖化に関する理解を深め、一人ひとりができることを考え、行動できるようにすることを目的とし、学習シートなどの環境学習ツールを作成し、大阪府ホームページに掲載しています。併せてご活用ください。

<https://www.pref.osaka.lg.jp/o120020/eneseisaku/education/index.html#tool>



<エコスタディ～おおさか環境学習のひろば～>

- 大阪府ホームページでは、環境学習に関する様々な情報を紹介しています。

https://www.pref.osaka.lg.jp/chikyukankyo/ecoala_top/kankyogakusyu.html



<貸し出しツールについて>

- 大阪府地球温暖化防止活動推進センター
(一般社団法人大阪府みどり公社)では、環境学習のより一層の推進を
図るため、センターで所有する環境学習教材の貸し出しを行っています。
- パネルやDVDはもちろん、実験キットを使って体験しながら学習していただける教材など
幅広く取り揃えています。直接センターでの受け渡し、または宅配便等による貸し出しをし
ています。(※送料は利用負担となります)



<センター所在地> 〒541-0054 大阪市中央区南本町2丁目1番8(創建本町ビル5階)

<http://osaka-midori.jp/ondanka-c/suishini/kasidasi/>

【参考情報】環境学習ツールについて

<環境省 環境教育に役立つ情報サイト 環境学習STATION>



みんなで**変える**地球の**未来**

～脱炭素社会をつくるために～



- 脱炭素社会の実現に向けた新環境教育教材等が紹介されています。
小学校低学年から高学年まで、学年に合わせた授業展開例や動画が掲載されています。

<https://policies.env.go.jp/policy/eco/>

<環境教育等に関する取り組み・イベントについて>

おおさか環境デジタルメディア学生コンテスト

- 大阪府では気候危機など様々な環境問題への理解と行動を促すため、環境に関する作品テーマを設定して、公共施設のデジタルサイネージ、webサイト等で活用できるデジタルポスターを公募します。
- 公募については、令和7年7月から9月を予定しており、詳細が決定次第、改めてお知らせします。

環境に関することわざコンクール

- 環境に関するテーマに合う「エコなことわざ」を募集し、表彰しています。(主催 エコ・ファースト推進協議会)
- 令和6年度は、6月21日から9月6日まで募集しました。
令和7年度については、詳細が決定次第、公表予定です。

<https://www.ecotowaza.jp/>



<引用元について>

- この「指導の手引き」は、大阪市環境副読本「おおさか環境科(小学校・義務教育学校5・6年生)の「指導の手引き」から一部転載し、大阪府において編集しました。なお、全文は大阪市環境情報サイト「なにわエコスタイル」からご覧いただけます。

<http://naniwa-ecostyle.net/>

- 経済産業省資源エネルギー庁の副教材(エネルギー教育)「かがやけ! みんなのエネルギー」「わたしたちのくらしとエネルギー」の解説編[教師用]からも一部引用しています。

<https://www.enecho.meti.go.jp/category/others/tyousakouhou/>